

令和6年度占冠村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

長年、転作田を利用した飼料作物生産が定着しており、水稻作付を行う技術を持ち合わせていない生産者が増えていることから畑地化推進交付金への移行を進めざるを得ない状況がある。生産者からは、今後5年間で水稻生産機械も処分し新たに始めるには費用負担が大きすぎることを受け、地域として新たな作物形成を進めることはせず飼料作物の生産基盤をより一層強化し、生産力の高いものとするを地域ビジョンに盛り込み飼料生産力強化を図ります。また、小規模な耕作面積の耕種農家は、集荷場への距離が負担となり、野菜生産者の確保並びに所得安定に向けた取組みのため産地交付金の利用を図る。さらに、畑地化促進交付金を基に基盤整備事業やシカ柵設置を行うなど、生産力の高いほ場に切り替えられるよう支援を図っていかねばならない。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本村の総面積に占める農地の割合は1.5%と少なく中山間地域特有の不正形地が点在し、大規模な生産が難しい地形となっている。また、積雪寒冷地で融雪も遅く耕起の遅れが収穫期まで影響するなど厳しい環境での農業生産が続けられてきた。農業者の所得向上を図るため水田を利用し、飼料生産基盤として村内酪農畜産経営の自給飼料の基盤を集約管理することで、作業効率並びに燃料コストの低減を図り、輸入粗飼料に頼らない安定した経営に向けた生産強化に取り組めます。また、野菜の生産は、選果場並びに集荷場への距離的条件不利地にあり、地場消費の取組みが長年実施され有機無農薬栽培が取り込まれるなど安心安全な生産物が農家所得の安定につながっている。令和8年に向けて水田活用直接支払交付の見直しまでに、水張り機能を生かした産地形成に至らない場合は、計画的に畑地化転換を進めるよう求める。一部不在地主からは、転作田として使い続けてほしい要望があり、事業の継続が求められている。

【 検討に当たっての主な視点 】

○飼料生産基盤の安定確保

- ・家畜飼養頭数の増加に伴い安定した飼料基盤を水田に求める生産者が増えている。
- ・野生鳥獣の食害に伴い収穫量の減少。
- ・基盤整備により生産力の高いほ場づくりへ転換。

○耕畜連携により飼料生産基盤の土壌物理性改善

- ・土壌診断により、適正な化学肥料の投下によりコスト低減。環境に配慮した土地利用。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本村では、長年転作田としての活用がされてきましたが、鳥獣被害や早霜などの影響を受けやすく被害の少ない飼料作物への転換が進められてきました。家畜頭数を拡大意向はあるものの転用基盤を活用していかねばならない状況で、安定した農畜産物の生産維持を続けることが難しい状態です。そこで、畑地化支援を活用した中で鳥獣被害防止柵の設置や畑地化構造改善事業等により生産基盤強化が必要です。本年度には、100%の畑地化促進事業の取得に向けた事業を推進します。

【 検討に当たっての主な視点 】

○ 地域の実情に応じた農地の在り方

- ・担い手・労働力の不足が進む中で、水田の生産を取組むことは難しい実情である。
- ・水利用の観点からも団地で畑地化促進事業の取得を進めなければならない。

○ 畑地化促進事業の点検

- ・5年間の作付けについて、適正に管理がされているか現地確認により点検状況を明記。
- ・飼料作物においては、収穫物が村内基準の反収並みの生産が行われるよう随時指導を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米 作付けなし

(2) 備蓄米 作付けなし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米 作付けなし

イ 米粉用米 作付けなし

ウ 新市場開拓用米 作付けなし

エ WCS 用稲 作付けなし

オ 加工用米 作付けなし

(4) 麦、大豆、飼料作物 (牧草・青刈りとうもろこし・ソルガム)

村内家畜飼養頭数の増加に伴い安定した飼料自給率が求められる。土壌物理性の改善や土壌診断に基づく適正な飼料により、環境負荷低減並びに低コスト飼料生産により畜産物の安定生産に繋がる。

(5) そば、なたね 作付けなし

(6) 地力増進作物 (からし菜・ひまわり・レンゲ・ライ麦)

村内飼料生産基盤から野菜生産を行ううえで、土壌物理性改善や線虫対策に効果が期待できる地力増進作物の導入により、化学肥料の低減や病気の低減が期待しているため、連絡ほ場に対し地力増進作物の導入を指導し、必要ほ場に適宜導入する。

(7) 高収益作物(野菜等)メロン、ミニトマト、ナス、スイートコーン、ピーマン、ゆり根

村内農産物として地域需要が高く、地域振興作物として支援し作付面積拡大に向け支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧(会員名簿)を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和８年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米						
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦						
大豆						
飼料作物	68.7		68.7			68.7
▪ 子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物						
▪ 野菜						
▪ 花き・花木						
▪ 果樹						
▪ その他の高収益作物						
その他						
▪ ○○						
畑地化	193		193			193

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				（令和5年度）687.6 a 反収3.68 t（生草）	（令和8年度）19,014a 反収3.80t
1	飼料作物 牧草。青刈りとうもろこし、ソルガム	堆肥施用に伴う土壌物 理性改善並びに雑草防 除	収量拡大に向けた 生産管理		

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

#REF!

協議会名:

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	堆肥施用に伴う土壌物理性改善並びに 雑草防除	1	11,700	牧草・青刈りとうもろこし・ソルガム	境涯雑草対策として除草剤散布・土壌物理性に応じた土壌 診断を基に化学肥料の施肥

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

~~※5 支援年限を記入してください。~~